

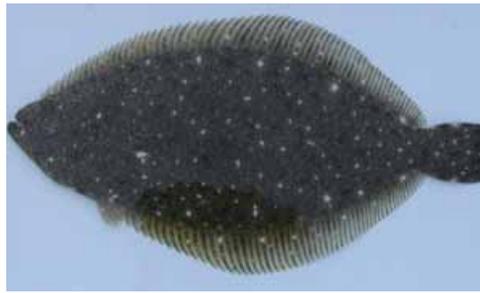
平成15年度資源評価票（ダイジェスト版）

標準和名 ヒラメ

学名 *Paralichthys olivaceus*

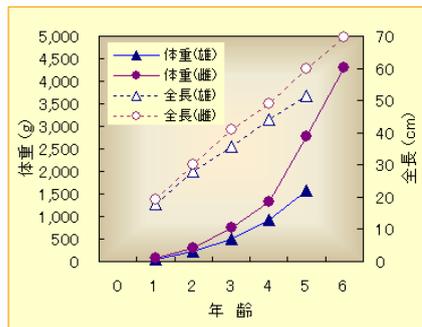
系群名 日本海北・中部系群

担当水研 日本海区水産研究所



生物学の特徴

- 寿命： 10歳以上
成熟開始年齢： 雄2歳・雌3歳
産卵期・産卵場： 春～夏季（4～7月）、水深50m以浅
索餌期・索餌場： 秋～冬季（8～3月）、水深150m以浅
食性： 着底後はアミ類など、その後魚類が主食、他にはイカ類、エビ類、カニ類等
捕食者： 不明

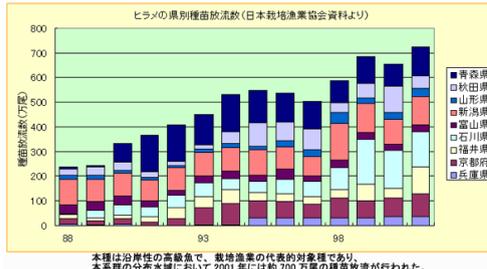
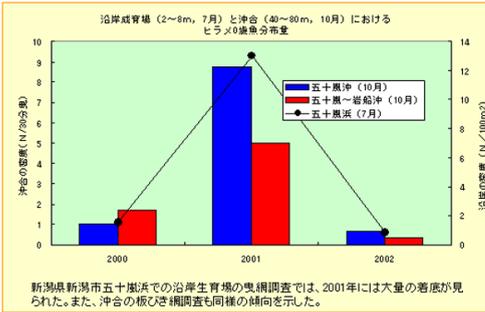
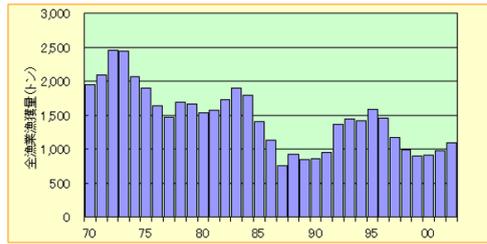
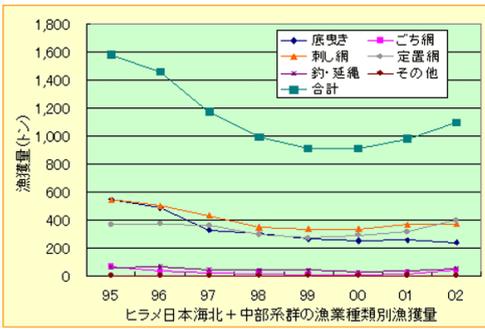


漁業の特徴

本種は沿岸性の高級魚で、栽培漁業の代表的対象種である。日本海側の北部～中部にかけての各府県（青森～兵庫）で主に刺網、定置網、底びき網などで漁獲されている。

漁獲の動向

漁獲量は1988年以降増大傾向にあったが、1995年の1,581トンピークに1997年は1,175トン、1998年は990トン、1999年は908トンと減少した。その後、2000年には911トン、2001年には979トン、2002年には1,094トン（概算値）と増加した。2002年の漁獲量を県別に見ると青森県の漁獲量の増加が著しく、全体の漁獲量の増加分とほぼ等しい。その他の府県計では2001年の漁獲量831トンより2002年805トン（概算値）の方がやや少ない。さらに青森県の聞き取り調査では2002年の漁獲量は113トンと2001年の142トンよりも少ない値となっており、2002年の概算値は変更される可能性が高いと判断し、以後の計算から除外した。

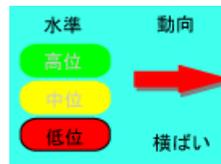


資源評価法

資源量が推定できないため漁獲量の推移から資源の動向を判断した。この海域でのヒラメの主要な漁業である刺し網と小型底びき網1種の出漁日数、小型定置網と大型定置網の漁労体数は最近5年間ではいずれもやや減少傾向で、それに対する漁獲量の割合は1998年か1999年以降いずれもやや増加傾向を示している。漁労体数や出漁日数の傾向から、漁獲努力量が急激に増えているとは考えにくく、漁獲量から資源量を判断する1つの根拠となると考えられる。

資源状態

長期的な漁獲量の動向から判断すると、資源の水準は低い水準と考えられた。また、最近の漁獲量の変動傾向から資源の動向は横ばいと判断された。



管理方策

漁獲量の推移から資源水準は低位で横ばい傾向と判断された。資源水準を回復するためには漁獲量の削減が望ましいと考えられた。最直近4年間の平均漁獲量(1998~2001年の947トン)×0.8=758トンの10トン未満を四捨五入した760トン(A B C limit)、さらにA B C limit×0.8=606トンの10トン未満を四捨五入した610トン(A B C target)とした。

	2004年ABC	管理基準	F 値	漁獲割合
A B C limit	760トン	0.8Cave4-yr	-	-
A B C target	610トン	0.8ABC limit	-	-

10トン未満四捨五入

資源評価のまとめ

- 漁獲量の動向より判断
- 漁獲量は1998年以降900~1,000トン程度の低水準
- 資源水準は低位で横ばい傾向

資源管理方策のまとめ

- 資源水準が低位であり、資源水準の回復のために漁獲量の抑制が必要
-

資源評価は毎年更新されます。